三鷹市立第五中学校　令和8年度【理科】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	【成果】 ○楽しみながら学び合う活動を前期・後期に位置付け、互いに助け合い、認め合うグループ学習を進めた。 ○評価規準を説明し、学習姿勢を問いかけながら、指導と評価を一体化したフィードバックを行った。 ○安全への配慮や学習過程を評価し、予習・振り返りの時間を確保して理解の向上を図った。 【課題】 ○家庭学習や予習を含め、テストの有無に左右されず主体的に学ぶ習慣を定着させること。	【現状】 ○グループ学習では、互いに助け合い、認め合いながら実験・観察に取り組む姿が見られる。 ○評価規準や安全上の留意点を意識し、フィードバックを受けて学習を振り返ることができる生徒が増えている。 ○授業内の課題には取り組める一方、予習・復習などの家庭学習は、テスト前に偏る傾向が見られる。 【課題】 ○授業での振り返りを次の学習や家庭学習につなげ、テストの有無に左右されず主体的に学ぶ習慣を定着させること。 ○学習の目的を意識し、安全に配慮しながら仲間と協力して活動する姿勢を継続して育てること。	【指導方法の課題】 ○振り返りを次の授業や家庭学習につなげ、主体的な学習習慣を形成する指導を行う。 ○実験・観察の目的、安全事項及び役割を全員が理解し、自分の考えをもって協働できるように指導する。 【授業改善策】 ◎毎時間の終末に５分程度「分かったこと・疑問・次に取り組むこと」を記述させ、次時の導入で活用する。家庭学習は週１回以上、授業内容に対応した短時間の復習課題を示す。 ○実験前に目的・手順・安全事項を図や実物で示し、全員が操作または記録を担当する。実験後は「個人で考察→小集団で共有→自分の考察を修正」の流れを設定する。 ○考察の書き方やよい記述例を具体的に提示する。基礎事項に課題がある生徒には用語・図表・計算の補充課題と机間指導を行い、理解が進んだ生徒には身近な現象を説明する発展課題を設定する。
第2学年	【成果】 ○学び合う活動を設定し、評価規準の説明とフィードバックを通して、学習への向き合い方を考えさせることができた。 ○実験・観察では安全への配慮や協力する過程を重視し、互いの能力を補い合う学習を進めることができた。 ○探究課題やレポート課題を協同で取り組ませ、多様な生徒が力を発揮できる学習機会を設けた。 【課題】 ○最短で評価規準に達することだけを目的とせず、中長期的な学習効果を意識して粘り強く取り組む姿勢を育てること。	【現状】 ○実験・観察や探究課題では、役割を分担し、互いの得意なことを生かしながら協力して取り組む姿が見られた。 ○評価規準やフィードバックを基に、必要な成果物をまとめることはおおむねできている。 ○一方で、評価規準を満たすことを優先し、予想と結果の違いを検討したり、考察を深めたりする取組が十分でない生徒もいる。 【課題】 ○結果を得ることを目的とせず、試行錯誤の過程を大切にし、課題の解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を育てること。 ○仲間の考えを取り入れながら自分の考察を見直し、中長期的な学習の成果につなげること。	【指導方法の課題】 ○評価規準を満たすことだけで終わらず、予想と結果の違いを分析し、試行錯誤を通して考察を深める指導が必要である。 ○他者の考えと比較し、自分の考察を修正・発展させる学習過程を充実させる必要がある。 ○科学的根拠を示しながら信頼性あるデータへの取り扱いについて考える時間を設ける 【授業改善策】 ◎各単元で1回以上、予想・方法・結果・考察を見直す探究課題を設定し、修正点と理由を記録させる。成果だけでなく試行錯誤や改善の過程も評価する。 ○実験後は個人で考察する時間を確保し、ホワイトボードやICTで結果を共有する。他者の考えと比較した後、全員が自分の考察を加筆・修正する。 ○考察の観点と記述例を示し、つまずきに応じた段階別課題と個別支援を行う。理解が進んだ生徒には条件を変えた実験や複数資料を関連付ける発展課題を提示する。
第3学年	【成果】 ○課題を捉え、取組内容と見通しを定め、試行錯誤しながら学習を調整する活動を取り入れた。 ○仲間との対話や声掛けを通して、自分のつまずきに気付き、互いに支え合う学習環境づくりを進めた。 ○受験後には、学習方法や習慣を後輩へ伝え、学びを継承する機会を設けた。 【課題】 ○自立して考察し答えを導く力をさらに伸ばすとともに、学年を越えて有効な学習方法を継承する取組を継続すること。	【現状】 ○課題の見通しを立て、試行錯誤しながら自分の学習方法や取組を調整しようとする姿が見られる。 ○仲間との対話や声掛けを通して、つまずきに気付き、課題解決の方法を考えることができる生徒が増えている。 ○学習方法や習慣を後輩へ伝える活動を経験しているが、自ら考察して根拠のある結論を導く力には個人差がある。 【課題】 ○実験結果や既習事項を根拠として、自立して考察し、科学的に説明する力をさらに伸ばすこと。 ○自分に合った学習方法を主体的に選択・調整するとともに、有効な学習方法を学年を越えて共有・継承すること。	【指導方法の課題】 ○実験結果と既習事項を関連付け、根拠のある結論を自立して導き、科学的に説明する力を伸ばす必要がある。 ○自分に合った学習方法を選択・調整し、その成果を他者や後輩と共有する機会を継続する必要がある。 【授業改善策】 ◎各単元で課題設定から考察までを個人でまとめ、「主張・根拠・理由付け」の観点で説明させる。記述例と評価規準を示し、自己評価と相互評価を経て必要に応じて修正できる力を付ける。 ○ICTで実験結果や考察を比較・共有し、個人思考から小集団・全体交流を経て再考する流れを設定する。単元ごとに学習計画と振り返りを記録させ、理解度に応じて復習・演習・発展課題から次の学習を選択させる。 ○基礎事項に課題がある生徒には既習内容の補充課題と個別支援を行い、理解が進んだ生徒には複数の資料を統合して説明する発展課題を設定する。学年末には有効だった学習方法を後輩へ伝える。